

「今を生きる」

(校長便り R2 NO.10)

校長式辞（卒業式）

ようやく春めいた日々が到来してきました今日の佳き日に、銀嶺会会長松本忍様、PTA 会長羽瀧慎也様をはじめ、ご来賓・保護者の皆様にご臨席を賜わり、第73回兵庫県立生野高等学校卒業証書授与式を厳粛に挙行できますこと、心から感謝申し上げます。

ただ今卒業証書を授与しました73期生53名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また今日まで深い愛情を持ってお子様の成長を支えてこられた保護者の皆様、心よりお祝い申し上げます。

73期生の皆さんにとって、最終学年である3年生の一年間は、新型コロナウイルス感染症の猛威に翻弄された一年でもありました。昨年3月からの臨時休校によって、普段通り登校できるようになったのは6月の半ばでした。6月に開催する予定だった文化祭もやむなく中止となり、部活動等の最後の大会も実施できない状況が続きました。大人の私たちでさえ、どう対処すればよいのか答えが見つからない中、皆さんは現状を受け入れ、柔軟にそして前向きにかけがえのない高校生活を一日一日大切に送ることができました。その姿に私たちは元気づけられました。きっと心の中では不安や葛藤があったと思いますが、それを感じさせず、ひたむきに頑張る姿は本当に立派でした。

あらためて、今、皆さんに饒として送りたいのは、「今を懸命に生きる」という言葉です。人はともすれば、過去の失敗にとらわれたり、将来に対する不安で萎縮したりしてしまいますが、大切なのは、今、この瞬間、瞬間を懸命に生きることです。コロナ禍によって、私たちはこれまでの何気ない日常が、実は当たり前ではないということに気付かされました。だからこそ、かけがえのない日々を感謝の心を持って懸命に生きていきましょう。その積み重ねが、きっと素晴らしい未来へと繋がっていきます。

本校では、学校改革として、3年前に「観光・グローバル類型」と「地域探究類型」の2類型を設置しました。そのパイオニア的な役割を73期生の皆さんが見事に果たしてくれました。戸惑いや苦労もあったと思いますが、皆さんは伝統校としての学びを継承しつつ、新しい時代に必要な力をこの3年の間に身に付けてきました。その頑張りはやがて皆さん自身の血肉となり、そして、その後ろ姿は、後に続く後輩たちを必ずや勇気づけてくれると信じています。

ライフネット生命の創業者出口治明さんは、その著書の中で、物事を考えるとき意識することとして、「タテ・ヨコ・算数」の3つを挙げています。「タテ」とは時間軸、すなわち昔の歴史を知る、「ヨコ」とは空間軸、すなわち世界の人々の考え方や実践を知る、「算数」とは、すなわち客観的なデータや事実、論理で裏づけていくという意味です。そして、何より大切なのは、それらを通して「自分の頭で考える」ことであると説いています。今後、皆さんが生きていく中で、「正解のない問い」に向き合うこともたくさんあると思いますが、いたずらに不安がったり、簡単にあきらめてしまうのではなく、冷静に物事を捉え、自分の頭で考え、自分なりの答えを見つけてほしいと思います。

『ゆめを育む生野高校』生野高校のキャッチフレーズです。この3年間で夢を育むことができましたか。新たな世界へ突き進むためには、やはり夢を持ち続けることが大切です。自分を信じ、自分の未来を信じ、正々堂々、夢に向かって生きてください。73期生の皆さんが悔いの無い人生を歩まれることを心から願っています。

令和3年2月27日

兵庫県立生野高等学校長 福田 孝善